

平成 17 年 7 月 28 日

各位

会 社 名 オムロン株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 作田 久男  
コード番号 6645  
上場取引所 東証、大証、名証各市場第一部  
問 合 せ 先 経営総務室 広報部長 生越 多恵子  
T E L 075 344 7175

## 子会社合併（簡易合併）に関するお知らせ

当社は、本日平成 17 年 7 月 28 日開催の当社取締役会において、下記のとおり当社の 100%子会社であるオムロン岡山株式会社を吸収合併することを決定いたしましたので、お知らせいたします。なお、本合併は、簡易合併の手続きにより行います。

### 記

#### 1．合併の目的

当社のインダストリアルオートメーションビジネスカンパニーが国際競争力のあるものづくりを強化するにあたり、オムロン岡山株式会社が保有する開発および生産人材、技術、ノウハウなどの活用とその効果を一層高めることを目的に行うものです。詳細については添付資料をご覧ください。

#### 2．合併の要旨

##### (1) 合併の日程

合併契約書承認取締役会	平成 17 年 7 月 28 日
合併契約書調印	平成 17 年 9 月 20 日(予定)
合併契約書承認株主総会	
当社	開催いたしません(注)
オムロン岡山株式会社	平成 17 年 10 月 6 日(予定)
合併期日	平成 17 年 12 月 1 日(予定)
合併登記日	平成 17 年 12 月 1 日(予定)

(注) 本合併は、商法第 413 条ノ 3 の規定（簡易合併）に基づき、当社においては合併契約書に関する株主総会の承認を得ることなく行うものです。

##### (2) 合併方式

当社を存続会社とする吸収合併方式で、オムロン岡山株式会社は解散いたします。

(3) その他

100%子会社との合併であり、新株式の発行および合併交付金の支払いは行いません。

3. 合併当事会社の概要（平成 17 年 3 月 31 日現在）

(1) 商号	オムロン株式会社（合併会社）	オムロン岡山株式会社（被合併会社）
(2) 事業内容	F A（ファクトリーオートメーション）システム、制御機器、電子部品、公共システム、交通システムなどの開発、生産、販売、サービス	当社制御システム機器製品の製造
(3) 設立年月日	昭和 23 年 5 月 19 日	昭和42年8月31日
(4) 本店所在地	京都府京都市下京区塩小路通堀川東入南不動堂町 801 番地	岡山県岡山市海吉 2075 番地
(5) 代表者	代表取締役社長 作田久男	代表取締役社長 山本卓二（注）
(6) 資本金	64,100 百万円	364 百万円
(7) 発行済株式数	249,121,372 株	728,000 株
(8) 株主資本	212,339 百万円	3,486 百万円
(9) 総資産	370,301 百万円	8,169 百万円
(10) 決算期	3 月 31 日	3 月 31 日
(11) 従業員数	4,115 名	413 名
(12) 主要取引先	国内外の製造業、非製造業など民間企業および官公庁	当社
(13) 大株主および持株比率	1 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口） 8.23% 2 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口） 7.09% 3 ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドン 3.62% 4 株式会社東京三菱銀行 3.10% 5 日本生命保険相互会社 2.44%	当社 100%
(14) 主要取引銀行	株式会社東京三菱銀行 株式会社京都銀行 株式会社三井住友銀行	株式会社東京三菱銀行 株式会社中国銀行 株式会社三井住友銀行

（注）平成 17 年 6 月 16 日付で、浜本信夫が代表取締役社長に就任しております。

(15) 当事会社の関係	資本関係	当社がオムロン岡山(株)の発行済株式を100%保有しています。
	人的関係	当社の執行役員2名がオムロン岡山(株)の取締役を兼務しています。
	取引関係	当社はオムロン岡山(株)が製造した制御システム機器を仕入れています。

(16) 最近3決算期間の業績

(単位:百万円)

決算期	オムロン株式会社(合併会社)			オムロン岡山株式会社(被合併会社)		
	15年3月期	16年3月期	17年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期
売上高	350,459	351,075	336,271	12,783	13,637	15,264
営業利益	8,166	9,787	15,305	1	392	350
経常利益	6,815	13,065	28,790	440	840	1,023
当期純利益	10,291	6,273	18,898	392	471	603
1株当たり当期純利益(円)	41.61	25.46	78.75	537.79	648.31	828.13
1株当たり配当金(円)	10.0	20.0	24.0			414
1株当たり株主資本(円)	811.99	849.76	891.45	3,312.64	3,960.96	4,789.09

(注) は損失を表します。

4. 合併後の状況

- (1) 商号 オムロン株式会社
- (2) 事業内容 F A (ファクトリーオートメーション) システム、制御機器、電子部品、公共システム、交通システムなどの開発、生産、販売、サービス
- (3) 本店所在地 京都府京都市下京区塩小路通堀川東入南不動堂町 801 番地
- (4) 代表者 代表取締役社長 作田久男
- (5) 資本金 64,100 百万円 (本合併による資本金の増加はありません)
- (6) 総資産 本合併による総資産への影響は軽微です。
- (7) 決算期 3月31日
- (8) 今後の見通し 当期の連結および単独の業績への影響は軽微です。

以上

## 添付資料

国際競争力のあるものづくり強化のため

### I A B の開発および生産拠点を再編

オムロン株式会社（代表取締役社長：作田久男）は、長期経営計画であるグランドデザイン 2010（GD2010）の第2ステージ（2004～2007年度）として、07年度末に、事業価値の総和の倍増（03年度比）を目標に、新規成長領域の構築（03年度比500億円増の売上創出）と収益成長を確固たるものにする収益構造（07年度末営業利益率10%）の構築を目指しています。それに基づき、各カンパニーは独自の目標を設定して、各種施策を不断の構造改革として推進しています。

今回、GD2010第2ステージにおける事業価値向上施策の一環として、激変するIA（インダストリアルオートメーション）市場において、当社の存在をより確かなものにし、国際競争力のさらなる強化を図るため、インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー（カンパニー社長：立石文雄、社内略称：IAB）は、下記の通り開発と生産拠点の再編を行なうことにしました。

#### 記

##### 【再編内容】

当社の主力事業であるIABは、新商品創出の加速および高効率生産の実現を狙ったコア技術力の強化、ならびにコスト競争力の強化を進め、国際競争力のあるものづくりをさらに推進することにより、GD2010第2ステージの事業計画に掲げた07年度連結営業利益率20%（新規領域を除く既存+中華圏領域）の達成を図ります。

IABの具体的施策として、すでに中国に設立済みの欧姆龍（上海）有限公司（社内略称：OMS）に日本国内から生産機能の移管を手掛けています。さらに、三島事業所、岡山開発センタおよびオムロン岡山株式会社が保有する開発および生産機能と、京阪奈イノベーションセンタが保有する生産技術機能を、07年度までに草津事業所へ統合していくこととしました。この再編の方針に基づき、今般、05年12月1日にオムロン岡山株式会社を当社に吸収合併することを決定しました。

これらの再編を実施し、合わせて07年度までに中国生産子会社OMSへ生産機能の移管を進める結果、統合後の草津事業所のIAB生産事業規模は、現行の三島事業所とオムロン岡山株式会社のIAB総生産事業規模の約8割程度になる見込みです。

一方、統合後の草津事業所をはじめ岡山事業所（仮称）、三島事業所は、開発と生産が協調して商品開発を進めるコンカレントエンジニアリング、生産コア技術の開発と実用化ならびに品質および技術サービス等のグローバル中核機能として位置付けていきます。

また、07年度までに草津事業所に600名程度の社員を投入配置し、この結果草津事業所はIABにとって国内最大の人員規模の開発・生産拠点となります。

### 【再編の狙い】

この再編は、新商品創出の加速および高効率生産の実現を狙ったコア技術力の強化、ならびにコスト競争力の強化を進め、国際競争力のあるものづくりを目指します。特に国内においては、中国生産子会社OMSのコスト競争力強化を支える生産コア技術力と、将来の基幹商品となりうる新商品を早期に創出するための開発体制を強化していきます。詳細は以下の通りです。

#### 1．コンカレントエンジニアリングの強化による新商品開発の加速

開発と生産が協調して商品開発を進めるコンカレントエンジニアリングをさらに強化し、新商品の開発スピードを向上させます。具体的には、現在三島事業所の主力製品であるプログラマブルコントローラ、およびオムロン岡山株式会社の主力製品である電子温度調節器等の生産ノウハウ、ならびに岡山開発センタの商品技術資産を統合することにより、顧客ニーズに対応した新商品の開発スピードを加速向上させます。

#### 2．生産コア技術力の強化による高効率生産の実現

開発および生産部門を統合する草津事業所に京阪奈イノベーションセンタのIAB生産技術部門を移転させ、生産コア技術（高信頼性実装技術、混流・需要同期化設備技術等）の開発と生産現場での実用化に向けた取り組みを加速します。これにより、草津事業所で生産コア技術を作り込み、中国生産子会社OMSを含むIABの生産拠点へ展開していきます。当社はものづくりを通じて、グループ内に蓄積した生産コア技術を新商品の創出にも活用していきます。

#### 3．コスト競争力の強化

これらのコア技術力の強化に伴ない、高効率生産と商品の差異化を実現させ、加えて中国設計生産拠点の強化により、中国での事業拡大とグローバルでの収益拡大を図ります。すでに、中国生産子会社OMSで中国市場に適合できるコスト構造の作り込みと中国事業拡大の基盤作りに着手しており、混流・需要同期化生産を24時間体制で確立していくことを目指しています。なお、今後とも引き続き主に国内生産の汎用品を中国へ生産移管していきます。

### 【再編に関する投資金額】

今回の一連の再編に伴い、当社は総額100億円（中国50億円、国内50億円）を投資し、各拠点のインフラ強化と生産コア技術開発への取り組みを強化していきます。

### 【再編に伴う数値的目標】

この一連の再編により、07年度以降、毎年90億円以上のIAB製造固定費抑制効果（前項投資分の減価償却費負担含む）を見込んでいます。その結果として、07年度のIAB連結営業利益率（新規領域を除く既存+中華圏領域）は20%を目論んでいます。

【再編後の岡山および三島拠点の位置付け】

今回の再編後、岡山事業所（仮称）は当社の評価・解析拠点と購買・調達拠点として位置付けます。また、三島事業所は顧客サービス拠点として位置付け、両拠点ともグローバル中核機能の強化を担う拠点として継続して活用していきます。

オムロン岡山株式会社の概要

所在地：岡山県岡山市海吉2075番地

I A B事業内容：電子温度調節器、電源、タイマ、カウンタ等の生産

岡山開発センタの概要

所在地：岡山県岡山市海吉2075番地（オムロン岡山株式会社内）

I A B事業内容：電子温度調節器、電源、タイマ、カウンタ等の開発

三島事業所の概要

所在地：静岡県三島市松本66

I A B事業内容：プログラマブルコントローラ、インバータ、サーボモータ、ネットワーク機器等の開発および生産

京阪奈イノベーションセンタの概要

所在地：京都府相楽郡木津町木津川台九丁目1番

I A B事業内容：生産コア技術および精密検査コア技術の開発

草津事業所の概要

所在地：滋賀県草津市西草津二丁目2番1号

I A B事業内容：現状ではI A B事業はなし

欧姆龍（上海）有限公司の概要（OMS）

所在地：中国上海市浦東新区金橋出口加工区金吉路789

I A B事業内容：プログラマブルコントローラ、センサ、電子温度調節器などの開発および生産

以上